



収穫したジャガイモの出荷準備をする酒井代表理事（兵庫県篠山市）

兵庫県篠山市の農家で構成する真南条上営農組合（酒井勇代表理事）は、神戸大と組んで表面が赤いジャガイモ「ネオデリ

同組合では3月、50ルボンの農地にネオデリシャスを作付けし、7月以降5トンを収穫した。販売価格は通常のジャガイモの倍に当たる1キロ当たり350円程度。

篠山市ではコメのほか、黒大豆などの生産も盛んだが「生産の手間が

赤いジャガイモ生産

篠山の農家、神戸大と組む

特產品めざしレシピ作りも

シャス」の生産・販売に本格的に乗り出した。神戸大の指導などを受け、昨年からテスト生産していたが、この夏に初めて収穫し、量販店への出荷も始まった。今後「丹波の赤じやが」の名称で特産品化を進める方針だ。

同組合では3月、50ルボンの農地にネオデリシャスを作付けし、7月以降5トンを収穫した。販売価格は通常のジャガイモの倍に当たる1キロ当たり350円程度。

組合では通信販売のほか、兵庫県西宮市内のショッピングセンターで販売。神戸市を中心にして、パーを開催するトーホーへの出荷も始まっている。地元の県立高校と組んでレシピも開発。煮崩れしやすい性質のため、ふかしたりチーズ焼きにしたりするのに向くといい、赤い皮にはポリフェノールの一種が含まれる

少ない新しい特産物を必要としていた」（酒井代表理事）ところ、神戸大がネオデリシャスの生産を勧めた。

組合では通信販売のほか、兵庫県西宮市内のショッピングセンターで販売。神戸市を中心にして、パーを開催するトーホーへの出荷も始まっている。地元の県立高校と組んでレシピも開発。煮崩れしやすい性質のため、ふかしたりチーズ焼きにしたりするのに向くといい、赤い皮にはポリフェノールの一種が含まれる